

目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「乾田直播」
- 4 特集「いいたて希望の里学園」
- 8 いいたて百景「春の花だより」
- 10 新行政区長・副区長の紹介
- 11 村の新しいかお
- 12 いいたて便り
- 14 話題のパレット
- 15 お知らせのページ
- 17 入札結果
- 18 いいたてDIARY／ラオス通信。
- 19 こころのぽけっと／ひとのうごき
- 20 HOPES（ホープス）



今月の表紙

會田征男さん・ツタ枝さん夫婦（伊丹沢）が長年をかけて植樹し手入れをしてきた桜の園。満開が間近となったこの日、「復興の桜」の碑の前で、ご夫婦に手を振っていただきました。

目からウロコの乾田直播

かんでんちよくは

13区営農組合の新たな試み

令和元年度に「農地中間管理事業」を活用し約90haの農地を集約し、本格的な活動を始めた「13区営農組合」。WCS（ホールクroppサイレイジ）用の稲や飼料用米、牧草の栽培・出荷を行っています。

稲の作付けは、「鉄コーティングもみ直播」を主軸に行いますが、さらなる省力化の可能性を探るために、4月8日、「乾田直播」を試験的に実施しました。「乾田直播」では、しっかり乾いた圃場に、直接種もみをまいていきます。芽が伸びてから水を入れ、育成は水田で行いますが、早くから作付けできるので、作付け期間を長く取ることができます。また、作業がスピーディーに進むため、他の田植え方法と組み合わせることで、大規模農地の稲作を効率よく進めることができます。

組合の皆さんは、機械の扱い方を確認しながら、次々に作業を進めていました。

播種や沈圧を行う機械をトラクターで牽引して作業します。効率よく短時間で作付けが進みます



「乾田直播」について聞いてみました

震災後、人手が減り、農地の集約が進んだことから、相双管内でも、「乾田直播」が普及してきています。早い時期から始められるので、苗を植える田植えと組み合わせ、時期を分散して作付けできる利点があります。

代かき作業などはありませんが、乾いた圃場を均平化してから種をまきます。播種の機械は、イタリア製の麦をまく機械を応用していて、言ってみれば、畑に種もみをまいていく感じですね。

作業も非常に短時間で進めることができますので大規模経営に適した方法です。

30aで30分ほど。どんどん作業が進んでいきます

佐藤 茂 さん
福島県相双農林事務所
農業振興普及部経営支援課 専門員



代表の細川強さん（上飯樋）。大型トラクターは、集約した農地の作業に活躍しています



人手も減らせる「乾田直播」は広大な農地で採用されてきました。村では初挑戦です